

2018年5月30日(水)～7月8日(日)

開館時間：10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
※入場受付は閉館の30分前まで

休館日：6月4日(月)、6月18日(月)、7月2日(月)

観覧料：一般200(160)円、大学生150(120)円
※小・中学生、高校生、市内にお住まいの65歳以上の方、
障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※()内は団体20名以上の料金

千葉県美術館
Chiba City Museum of Art

所蔵作品展

浮世絵黄金期からの展開

Exhibition from the Collection “Developments in Ukiyo-e after its ‘Golden Age’”



所蔵作品展

浮世絵

黄金期からの

展開

Exhibition from the Collection
"Developments in Ukiyo-e
after its 'Golden Age'"



1



2



3



4



5

- 1.勝川春章《花魁立姿図》絹本着色 1幅 天明期(1781~89)
- 2.勝川春好《四代目岩井半四郎の人形遣い図》絹本着色 1幅 天明期(1781~89) 公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団 千葉市美術館寄託
- 3.喜多川歌麿《朝顔を持つ美人》絹本着色 1幅 寛政(1789~1801)中期
- 4.鳥文斎栄之《朝顔美人図》絹本着色 1幅 寛政7年(1795)
- 5.祇園井持《公卿と官女図》絹本着色 2曲1隻 享和~文化期(1801~18)

18世紀後半、江戸の人々は、安定した都市の恩恵に満悦感をおぼえ、また江戸の地に深い愛着を持っていたようです。そのような江戸の地で生まれた浮世絵は、この時代最も華やかな展開をしたと言えます。喜多川歌麿(?-1806)、鳥文斎栄之(1756-1829)、勝川春章(1743-93)、歌川豊国(1769-1825)といったスター絵師が誕生し、武士から庶民まで浮世絵を身近に楽しむようになりました。

この展示では、喜多川歌麿が新潟の豪農のために描いたと伝えられる、重要美術品「納涼美人図」をはじめ、千葉市美術館の誇る浮世絵コレクションから、浮世絵黄金期の名品を選んで展示します。

また企画展「岡本神草とその時代」展にちなみ、上方の浮世絵もご紹介します。

【交通案内】

JR千葉駅東口より ■ 徒歩約15分 ■ バスのりば⑦より
大病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または
「大和橋」下車徒歩約3分 ■ バスのりば⑩C-busにて
「中央区役所・千葉市美術館前」下車 ■ 千葉都市モノ
レール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分

京成千葉中央駅東口より ■ 徒歩約10分

東京方面から車では ■ 京葉道路・東関東自動車道で宮
野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国
道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

※千葉市中央区役所と同じ建物です。

※地下に、区役所と共用の機械式駐車場がありますが、混雑時
はご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関でのご
来館をお願いします。

千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

電話043-221-2311 <http://www.ccma-net.jp>



【同時開催】

企画展「岡本神草の時代展」

※「岡本神草の時代展」をご観覧の方は無料



岡本神草《口紅》大正7年(1918)
京都市立芸術大学芸術資料館蔵